

第2 実践事例

事例1 各自の構想を基に設計について話し合い、工夫し創造する能力を育成する事例 技術分野「A 材料と加工に関する技術」(3)アイ 実践のねらいと手立て

題材名	教育課程編成要領	教育課程指導資料	教育課程評価資料
身の回りを整理する作品をつくろう！	P103・P106・P108	P128・P129	P148・P149

ここでは、身の回りを整理する作品を設計する際、自分の考えを整理し、実際の製作を行う前に課題を明らかにするために、構想を練る過程で発表形式の意見交換を取り入れた。よりよいアイデアを生み出せるよう、製作図を適切に用いて考えたり、説明するなどの学習活動を充実させて、工夫し創造する能力の育成を目指した。

1 題材の目標

身の回りを整理するものを製作することを通して、ものづくりの基礎的、基本的な内容や技術を習得させるとともに、技術が果たす役割について理解を深め、生活をよりよく工夫し創造する能力を育成する。

2 題材の評価規準

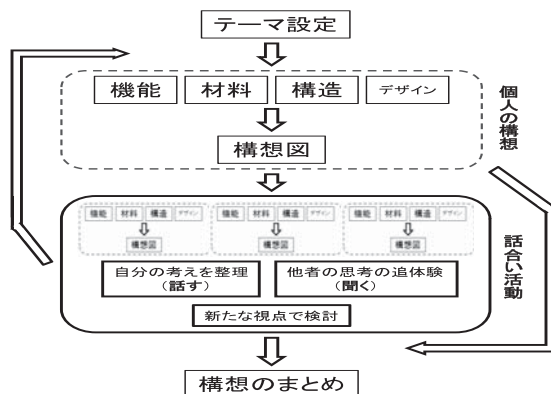
生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
材料と加工に関する技術に関わる倫理観を身に付け、知的財産を創造・活用しようとしている。	使用目的や使用条件に即して製作品の機能と構造を工夫している。	製作図をかき、部品を加工し、組立て及び仕上げができる。	構想の表示方法についての知識を身に付けている。

3 指導と評価の計画(4時間)

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法			
		生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
2	○自分の構想をまとめる。 ・構想を図や模型で表わす。		・製作品の使用目的や使用条件を明確にし、製作品やその構成部品の適切な形状と寸法などを決定している。 (ワークシート)	<p>考えを整理するポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テーマ設定〔生活の中の課題と解決方法〕 「身の回りを整理する作品をつくろう」 ○機能〔使用目的の明確化〕 大きさ、使いやすさ、デザイン、工夫 ○材料〔経済的・環境的・社会的側面の考慮〕 加工のしやすさ、価格、耐久性 ○構造〔実験などの結果を参考〕 製作品を丈夫にするための工夫 	
3 (本時)	○自分の構想を他者の意見も参考に再検討させる。 ・発表会で自分の考えを伝え合い、工夫点を探る	・新しい発想を生み出し活用しようとしている。 (観察・ワークシート)	・社会的、環境的及び経済的側面などから材料、使いやすさ及び丈夫さなどを再度比較・検討した上で、形状と寸法を決定している。 (ワークシート)		

主な学習活動(話し合い活動)

課題解決のプロセス



「アイデアシート」を用いて自分の考えを発表する

構想のまとめ	私のアイデアシートA	年 組 番	氏名
作品名	私の収納便利箱		
収納するもの	・筆記用具 ・本 ・小物	使用する場所	机の上や机の脇
基準になる大きさ	・本 10×180×260	使用する材料	・集成材 ・合板
一押し工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・2段目に小物を入れるようにしたところ ・筆箱の代わりになるようにした。 		
基本的な形	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2段目が小物が入るところが浅いので、その左側には背の高いものは置けない。 ・重いかもしれない 		
課題解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・2段目も本が置けるよう高くしたため、小物入れは、スライドの棚にした。 ・背板を薄くして軽くした。 		


検討を深めるための手立て

- ①図の活用(図で伝える)【書く】
 - ・アイディアスケッチや製作図(キャビネット図・等角図・第三角法による正投影図)を活用する。
 - ・パソコンを活用する。(ソフトウェアを活用した図面やデジタル化した図)
- ②模型の活用
 - ・厚紙や段ボールで製作した模型を活用する。
- ③ワークシートの活用(言葉で伝える)【書く】
 - ・要点をつかんで伝える〔ワークシートA〕
 - ・他者の意見を参考にしながら自分の考えまとめる〔ワークシートB〕
 - ※自分の考えの変容や根拠、理由を明らかにするために記録する。
- ④学習形態の工夫【話す・聞く】
 - ・小グループで
 - ・テーマ別で
 - ・クラス全体で

4 本時の学習指導

(1) 目標 使用目的や使用条件に応じた製作品の構造や機能を発表し、さらに工夫できるか考えることができる。

(2) 展開 (3 / 4 時間)

学習過程	生徒の活動	時間	教師の働きかけ	評価と指導の工夫 ＜評価の観点＞（評価方法）	資料等
				◆評価規準 ※指導上の留意点 ◎十分満足できる状況 ○おおむね満足できる状況 △努力を要する状況の生徒への指導の手立て ※根拠を明確にした自分なりの考えがまとめられているか確認させる。	
学習課題への意欲付け	<ul style="list-style-type: none"> 各自が構想について確認する 本時の目標を知る。 	5	<ul style="list-style-type: none"> アイディアシートAで自分の構想を確認させる。 本時の課題を提示する。 		アイディアシートA
課題発見と解決	<p>学習課題：自分の考えを発表し合い、さらにステップアップしたアイディアを生み出そう。 ～「思いついたぞ！もうひと工夫!!」～</p> <p>○グループごとの発表会 ・発表マニュアルに従ってグループごとに発表会を進行する。 ・アイディアシートAにそって、各自の構想のポイントを発表する。 ・他の人の発表を聞き、参考になった点（青の付箋）やアドバイス（赤の付箋）を記入する。</p> <p>○各個人の構想のまとめ ・グループ内の人からのコメントを確認し、さらに、ステップアップできるポイントを探る。</p>	20	<ul style="list-style-type: none"> 各自が考えた機能面や構造面について使用目的や使用条件を明確にさせながら、各自の構想におけるアイディアをグループ内で順番に発表させる。 発表者の構想のポイントを聞き、参考点・改善点の視点で評価し、考えを付箋に記入させる。（参考点：青の付箋 改善点：赤の付箋） 	<p>※自分の考えを伝えるために、言葉だけでなく模型やシート（アイディアシートA）を活用し、分りやすく伝えるよう工夫させる。</p>  <p>◆製作品の使用目的や使用条件を明確にし、社会的、環境的及び経済的側面などから材料、使いやすさ及び丈夫さなどを比較・検討し、他者の意見も参考にしながら、製作品やその構成部品の適切な形状と寸法を決定できる。 ＜工夫・創造＞（アイディアシートB）</p>	発表マニュアル 付箋（青と赤） アイディアシートB
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 自分の構想の流れを確認し、まとめる。 	10	<ul style="list-style-type: none"> 他者の意見を参考にした上で、自分の考えをまとめられたか確認させる。 本時の目標の到達度や課題について自己評価させる。 	<p>◎他者の意見も確認し、根拠を明確にして、決定までの過程をしっかりとまとめている。</p> <p>○決定までの過程をしっかりとまとめている。</p> <p>△他者の意見と自分の考えを整理させ、考えをまとめさせる。</p>	学習記録簿

年 組 番 氏 名

部品番号	品名	材質	寸法(約)寸法 長さ×幅×高さ(mm)	数量
1	側板A	黒成型材		2
2	側板B	黒成型材		2
3	底板	黒成型材		1
4	上面	黒成型材		1
5	蓋板A	黒成型材		1
6	蓋板B	黒成型材		1
7	蓋板C	黒成型材		1
8	蓋板D	黒成型材		1
9	蓋板E	黒成型材		1
10	蓋板F	黒成型材		1
11	蓋板G	黒成型材		1
12	蓋板H	黒成型材		1
13	蓋板I	黒成型材		1
14	蓋板J	黒成型材		1
15	蓋板K	黒成型材		1
16	蓋板L	黒成型材		1
17	蓋板M	黒成型材		1
18	蓋板N	黒成型材		1
19	蓋板O	黒成型材		1
20	蓋板P	黒成型材		1
21	蓋板Q	黒成型材		1
22	蓋板R	黒成型材		1
23	蓋板S	黒成型材		1
24	蓋板T	黒成型材		1
25	蓋板U	黒成型材		1
26	蓋板V	黒成型材		1
27	蓋板W	黒成型材		1
28	蓋板X	黒成型材		1
29	蓋板Y	黒成型材		1
30	蓋板Z	黒成型材		1

構想のまとめ

テーマ設定
○自宅にある本と小物（文房具など）を上手に片付けられるものにした。
○机の上において使える大きさで、文房具なども片付けられるものにした。

機能面・構造面
○同じ大きさの本を一段目、高さのばらつきがあるものを2段目、小物を3段目にいれ安定性と取り出しやすさを考えた。
○重くならず、小物が落ちないように扉板にしたことで強度も増した。
○受け皿と引き出しを兼ね、軽いアクリルを使用した。

アイデアスケッチ
アイデアシートAより
アイデアシートBより

参考点
○引き出しをつけただろうかというアドバイスももらった。
○うすくて、軽く、加工しやすい材料のアクリル板を使った。

年 組 番 氏 名

私のアイデアシートB

構想のまとめ

参考意見

赤の付箋

- 材料が足りなさそうなので背板を細くしたらどうか
- 2段目に背の高いものが置けない。
- 2段目の使い方がもったいない。引き出しを付けただろうか

青の付箋

- 小物や本などが置いて机の上が片付きそう
- デザインがきれい
- 上から小物を取り出しやすく使いやすそう

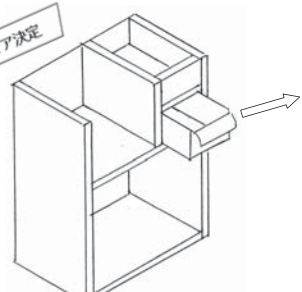
ステップアップのポイント

- 上から小物を取り出しやすくして使いやすそう
- 2段目の工夫
- 引き出し
- 背板の工夫

私の考えのまとめ

- 2段目の側板を高くする
- 背板に別の薄い板を使う
- 小物入れを2段にし、収納できるように引き出しにする。

アイデア決定



5 実践の成果

- ・話し合いを行うことで、自らの考えを整理し、理由や根拠を明らかにする活動が、意欲的に行われた。また、話を聞いてもらう相手を意識した資料づくりや言葉の表現に注意した活動が増えた。
- ・意見交換することで、考える視点が増え、自分の考えをもう一度見直す良い機会となりよりよい構想のまとめにつながった。
- ・話し合いをしっかりと行わせるためにも、事前の準備が必要であり、具体物で説明できるとより聞き手に分かりやすい発表になった。

実践のねらいと手立て

題材名	教育課程編成要領	教育課程指導資料	教育課程評価資料
エネルギー変換を利用したインテリアをつくろう！	P109	P130・P131	P146・P147
ここでは、現在の生活を見つめ、エネルギーについての基礎的な知識とエネルギー変換の仕組みについて理解させ、それらを利用した設計・製作、及びこれからの生活におけるエネルギー変換について考えることができる実践力を育成したい。 ワークシートと話し合い活動を通して、生徒の製作品の組み立て・調整や電気回路の配線・点検ができ、さらに組み立てや調整に必要な工具や機器の適切な使用方法を知り、安全を踏まえた製作品の組み立て・調整や電気回路の配線・点検ができる技能の一層の充実を目指した。			

- 1 題材の目標
 - 2 題材の評価規準
 - 3 指導と評価の計画
 - 4 本時の学習指導
- } 略




(1) 目標

- ・「LEDくつろぎランプ」の設計に基づき、安全を踏まえた、製作品の組立、調整や、電気回路の配線及び、回路計を用いた点検ができる。(観察・点検シート・実技テスト)
- ・組み立てや調整に必要な工具や機器の適切な使用方法についての知識を身に付けている。(観察・ワークシート)

(2) 展開



(19・20 / 24時間)

学習過程	生徒の活動	時間	教師の働きかけ	評価と指導の工夫 〈評価の観点〉(評価方法) 完成したLEDくつろぎランプ	資料等	
学習課題へ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習目標を知る。 ・配線作業の手順(工程)と安全面を確認する。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の作業進度を確認する。作業上効率のよい配線作業の手順を確認する。ワークシートで確認する。(回収後確認) 		完成品見本 ワークシート	
の意欲付け	<p>学習課題：配線作業の手順を守り安全に電気器具の配線をしよう。</p> <p>1 安全な配線作業ができなかったときはどんなことが起こるのか考える。</p> <p>話し合いの結果からショートすることをつかむ。ショートとはどういう現象かを知る。</p> <p>2 ビニルコードの端末処理を圧着端子を用いて行う。 ・プラグとコードの接続。 ・中間スイッチを入れる。 以上の2点は前時で終了。本時は配線の最後の段階で、コードと電球ソケットを接続する。</p> <p>3 技能の向上点をまとめる。(あえてニッパやペンチで心線を出す作業を行い、ものづくりへの意識の高揚と自分の技術の向上や工夫点を見付ける出させる。)</p>	10 15 10	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの内容を紙に書いて黒板に掲示し、発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 生徒の主な答え 内部の導線に電流を流すとショートする。感電する。発火し火災になる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を参考にビニルコードの端末処理をさせる。ニッパ、ペンチの場合：ワイヤストリッパの場合：二つの使い分けも考える。心線が切れた場合はやり直しをする。自分の工夫が出てくるとコツにつながる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 生徒からでた技能の向上点 ニッパでビニルコードから心線を出す作業ではコード全体に丸く傷をつける方法と力加減。ニッパでビニルを引き抜くコツが段階的に会得できた。 </div>	<p>話し合いの結果を発表する</p> <p>◆コードの端末処理を工夫している。(観察)</p> <p>◎ニッパ、ペンチと電装圧着工具を使い分け、心線と圧着端子の穴の径の大きさを考えて端末の処理が正確にできる。</p> <p>○端末処理と圧着端子の取り付けが助言を得ながらなんとかできる。</p> <p>△教科書を参考に何回もやりなおす。</p> <p>※道具の使い方が安全、的確か。</p>		ニッパ ねじ回し ワイヤストリッパ 圧着端子 圧着ペンチ*ここでは電装圧着工具(多機能プライヤー)を使う。
課題発見と解決	 <p>ニッパによる被覆とり</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・圧着端子の輪にねじをしつかりと止め、接続する。 ・電装圧着工具を使用し圧着する。 	 <p>電装圧着工具による被覆とり</p>  <p>圧着端子の取り付け</p>		
4	コードとソケットの接続					

学習課題への意欲付け	<p>5 電気部品の配線が完成したが、すぐに電流を流してもよいか考える。</p>  <p>完成した電気配線部品</p>	10	 <p>目視による電源プラグの安全点検</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全点検の必要性を説明する。 教科書を参考に、導通試験を行わせる。 分からない場合は、個別に観察指導する。 	<p>◆安全点検の必要性を理解し、その方法を工夫している。(観察・ワークシート)</p> <p>◎安全点検の必要性を理解し、三つの場所と段階を追った点検ができ不良個所の特定ができる。また、その修理が正確にできる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 電源プラグとコードの接続 ② ①に中間スイッチの接続 ③ ②に電球ソケットの接続 <p>○全体の安全点検と修理が助言を得ながらなんとかできる。</p> <p>△方法を確認させ、実行する。</p>	デジタル回路計
課題発見と解決	<p>学習課題：LEDくつろぎランプで電気器具の保守点検の方法を理解し、家庭で実践しよう。</p>				LED電球
まとめ	<p>6 安全点検を行う。 導通試験を行う。</p> <p>7 修正と修理 不良箇所の修正と修理をする</p> <p>8 点灯試験 商用電源にLED電球を接続、点灯試験を行う。</p> <p>9 電気器具の保守点検</p> <p>(不良箇所点検：プラグ)</p> <p>10 本時の学習内容のまとめ ・次時の学習内容を知る。</p>	10 10 5 10 5	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検で特定できた不良箇所について修正と修理を行わせ、再度安全点検をさせる。 <p>(圧着端子を使わない場合は心線のはんだづけを点検)</p> <ul style="list-style-type: none"> 点灯しない場合、再度導通試験を行う。 白熱電球とLED電球の違いについて触れる。(値段、効率、耐久性) 電気事故の例を挙げコードやプラグ、ソケットの許容電流、たこ足配線、器具のゆるみ、ほこりに触れ、家庭での点検を行う。 	 <p>デジタル回路計による導通試験</p> <p>※家庭での電気器具の保守点検の方法について考える。</p> <p>※前時のショート、感電、発火、火災の原因を思い出す。</p> <p>※家にあるプラグで分解できるタイプのコードを確認し、点検にあたることを話す。</p>	

ワークシート 年()組、氏名()

- 配線作業の手順と安全面の確認
(安全な配線ができなかったときは、どうなるのか)
- ビニルコードの端末処理とプラグへのねじ止め
①心線を切らないようにビニルコードの被覆をとるコツは何だろうか。圧着端子をつける注意点は何か。

(圧着ベンチで2箇所かきめる。圧着端子取付完成)

- 安全点検(導通試験)を行う。異常があった場合、どこが原因か特定し、不良箇所を直す。
- 電源に接続して、ランプを点灯できたか。
- 班内の他の人の作品を見て、意見交換を図る。
- LED電球と白熱電球の違いについて
- 家庭での電気器具の保守点検のポイントを確認する。
たこ足配線・ほこり・プラグやソケットのゆるみ

①生徒の活動する場を設定し、②教師による意図的な働きかけをすれば、生徒は習得した知識や技能を自ら活用し、自ら問題解決を図る。①の生徒の活動する場とは次の(ア)から(カ)の言語活動を設定した。②の教師による意図的な働きかけとは、教師がねらいと目的を持って生徒に適切に働きかける発問、言葉かけ、机間巡視、説諭、掲示等である。

本2時間の中では

ア 体験から感じ取ったことを表現する。(電気配線をして初めての感想が工程ごとにかかる)

イ 事実を正確に理解し伝達する。(電気配線のノウハウの理解と他の人の配線の間違いの指摘)

ウ 概念、法則、意図などを解釈し、説明したり活用したりする。(電気配線の法則、意図を理解し、その通りにできる)

エ 情報を分析・評価し、論述する。(電気配線の方法について自分の工夫点も含めて、まとめられる)

オ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。(電気配線の一般的なノウハウを理解し、さらに発展させて、自分の方法を工夫・改善できる)

カ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

5 実践の成果

- 電気機器の事故原因について2段階でねらいに迫れた。最初は単に「ショート、発火、火災」という答えであったが、配線作業の手順を理解したことにより、学習後はより具体的に不具合の場所と原因を指摘することができた。
- 各自の作品を見ての班内での意見交換を通して、コードの心線を出す作業では心線を1本も切らないことが自信になり、工夫が見られ、技術の向上が見られた。安全点検では回路計を使って生徒同士で点検し合う場面も数多くみられ、不良箇所の特定について検討してすることができた。自分以外の意見について真剣に耳を傾け参考にし、問題解決に向けて前向きに取り組む姿勢が見られた。
- 他の人の意見を取り入れより良いものを作っていくとする技術や方法を試すことができた。自分の作業方法の改善点、技能の向上を目指して、コードの端末処理では作業の三つの段階ごとに工夫を重ねコツをつかんだ生徒が多くみられた。
- 家庭での電気器具の保守点検、実際の生活で今日の学習を生かす活動を通して、電気器具や安全点検に対する関わりが身近に感じられるようになった。プラグやソケットなどの簡単な機器なら自分で安全の確認と修理ができる自信が付いた。

事例3 品質や収穫量の向上を工夫し、技能を評価する事例 技術分野 「C 生物育成に関する技術」(2)ア

実践のねらいと手立て

題 材 名	教育課程編成要領	教育課程指導資料	教育課程評価資料
目的をもって生物育成にチャレンジしよう	P108	P132・P133	P150
<p>ここでは、内容「C 生物育成に関する技術」の題材として栽培を取り上げ、生徒が目的をもって意欲的に生物育成に取り組むことをねらいとする。栽培に関する基礎的知識・技術を学習した上で、栽培する作物についてどのように育てたいか考案させる。</p> <p>自らの定めたテーマを達成するために育成する場所や費用、日数など様々な条件も考慮した栽培計画を立てさせ、栽培する技能を育てる。さらに、成長の変化をとらえさせて適切に対応を工夫する能力を育成する。</p>			

1 題材の目標

- 品質や収穫量の向上等を目的とした栽培計画を立て、実行することができる。
- 生物育成に関する技術を評価し活用できる能力と態度を育成する。

2 題材の評価規準 略

3 指導と評価の計画 (11時間)

時 間	ねらい・学習活動	評 価 規 準・評 価 方 法			
		生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能 力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
1 2 3	○生物育成の技術 C(1)ア ・生物を育てる基本を学習しよう！	作物の育成に適する条件についての情報を集めようとしている。(観察)			作物の生育過程や環境条件を説明することができる。(ワークシート)
4 5 本時	○栽培計画表の作成 C(2)ア ・埼玉一のミニトマトを育てる栽培計画を立てよう！		目的に応じた栽培方法を検討し、栽培計画を作成している。(栽培計画表)	地域の環境条件にあった栽培計画を作成することができる。(栽培計画表)	栽培に必要な作業の仕方や農機具の使い方が言える。(ワークシート)
6 7 8	○日常の手入れと管理 C(2)ア ・自らのテーマにあった栽培に取り組もう！	栽培に必要な用土や用具を準備し、進んで片付けや用具の手入れをしている。(観察) 作物の生長の様子を絶えず記録している。(栽培日誌)	テーマにせまる栽培のため、施肥の時期や種類、量、管理作業を工夫している。(観察、栽培日誌)	適切に用具を使い、作物に応じたかん水や施肥など、日常の管理が適切にできる。(観察、栽培日誌)	作物の保護の方法や病害虫に犯されにくい栽培方法、防除方法が言える。(ワークシート) 作業段階に応じた栽培方法を説明できる。(観察)
9	○ミニトマトの栽培に関する具体的な事例	成長の変化をデジタルカメラで記録し、栽培日誌を更新している。(栽培日誌)	ミニトマトの状態に応じて、施肥やかん水を行っている。(観察)	摘芽を欠かさず実施している。(観察) 栽培テーマに基づき、摘しん、摘果を行っている。(観察)	病害虫の発生を、未然に防いでいる。(観察) 受粉作業を意図的に行っている。(観察)
10 11	○収穫と検証・考察 C(1)イ ・収穫物は君の努力の成果だ！	生物育成に関する技術の光と影について考えまとめることができる。(ワークシート)		収穫物がテーマに迫る状態である。(観察、ワークシート)	収穫物や栽培結果について分析し、テーマにどれだけせまることができたか検証することができる。(ワークシート)




4 本時の学習指導

(1) 目標 栽培の目的や条件に応じた合理的な栽培方法について考えることができる。

(2) 展開

(5/11時間)

学習過程	生徒の活動	時 間	教師の働きかけ	評価と指導の工夫 <評価の観点> (評価方法)	資料等
学習課題への意欲付け	・栽培の目的や様々な栽培上の制約条件についてまとめる。 ・制約条件を整理し、改善点、工夫点を考える。	10	・自分の栽培物や作業への思いを広げさせる。 ・制約条件を整理させ、改善すべき点を考えさせる。	※制約条件については、全員共通のもの個別のものに分けて提示する。	ワークシート ※教育課程評価資料P.150参照
課題発見と解決	学習課題：埼玉一のミニトマトを育てる栽培計画を立てよう！ ・具体的な解決方法を考え、工夫した作業内容を記入し、その理由や根拠を考える。 ・個々の計画表をもちより、テーマ毎に修正や改善のアイデアについて意見交換をし、一つの計画表にまとめる。 ・テーマ毎にまとめた計画表を発表する。	10 5 10	・様々な制約条件を考え、課題解決に向けて具体的な方法を考えさせる。 ・班としての最適な解決方法を考えさせる。 ・テーマ毎のアイデアを共有し、自分の考えの修正点を見付けさせ、発想を広げさせる。	◆栽培の目的や制約条件に応じた栽培計画を立て、栽培の方法を工夫することができる。<工夫・創造> (ワークシート) ◎栽培の目的や条件にあった栽培計画を立てるとともに、意図する栽培に必要となる主な作業内容や手順、留意点が理由と根拠とともに具体的に記述されている。 ○栽培の目的や条件に合った栽培計画立てるとともに、意図する栽培に必要となる主な作業を挙げ、その理由が記述されている。	拡大した計画表 プロジェクト スクリーン 実物投影機

	<p>埼玉一数多く実をつけるミニトマトを育てる テーマに迫る方法) 数多く花をつけさせる。</p>  <p>考えられる栽培方法) 花が多く咲くように肥料を変える。 摘しんしたら、わき芽を摘まない。</p>	<p>埼玉一甘いミニトマトを育てる テーマに迫る方法) 栄養がよい実にする。</p>  <p>考えられる栽培方法) 実になる肥料を多く与える。 摘果して、数を減らす。</p>	<p>埼玉一大きいミニトマトを育てる テーマに迫る方法) 栄養を1つの実に集中させる。</p>  <p>考えられる栽培方法) 実が付き始めたら摘果する。 実になる肥料を多く与える。</p>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・他人と自分のアイデアを比較検討する中で、最終的に自分なりの作業計画を考え、まとめる。 ・最適な計画のポイントを整理し、発表する。 	15 <ul style="list-style-type: none"> ・最適な作業計画を自分なりに考え、その理由や根拠をまとめさせる。 ・自分が考えた最適な作業計画のポイントを発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> △制約条件と関連する環境要因等から必要な作業や準備する物などを考えさせる。 △それぞれの作業内容と環境要因等との関連性を考えさせる。

「生活の技能」の評価

生物育成に関して、技能の評価は読み取りづらい。あらかじめ生徒に管理作業のタイミングや目安になる栽培物の状態を自由に確認できる資料等を準備し、視覚的に示す。

また、栽培結果に関して評価期間を定め、栽培計画立案時よりテーマ達成に向けて計画的に栽培する技能を育成する。

テーマ 場面	埼玉一数多く実をつけるミニトマトを育てる	埼玉一甘いミニトマトを育てる	埼玉一大きいミニトマトを育てる	教師主導による基準体の栽培	
栽培結果	 <p>【摘芽】一本仕立てにする。 【摘果】実施しない。 【収穫】咲いた花の数と、実際に結実した数を計測する。 大きさ、重さ、糖度を基準体と比較する。</p>	 <p>【摘芽】一本仕立てにする。 【摘果】実の付き始めに、実る位置を考えながら3~4個だけ残す。 【収穫】大きさ、重さ、糖度を基準体と比較する。 基準体と比較する食味試験を行う。</p>	 <p>【摘芽】一本仕立てにする。 【摘果】実の付き始めに、1個だけ残す。 【収穫】大きさ、重さ、糖度を基準体と比較する。</p>	<p>一本仕立てを行い、テーマ別に工夫を行った栽培に対する比較対象として基準体を栽培する。 ※栽培に失敗した生徒への課題として、最後まで粘り強く課題へ取り組む姿勢を観察する。</p> <p>【摘芽】一本仕立てにする。 【摘果】実施しない。 【収穫】大きさ、重さ、糖度を測定する。</p>	
日常の管理 作業	<p>【共通項目】樹勢を観察し、栽培条件に応じた共通の技能を読み取る。</p> <p>具体的な項目</p> <p>【除草病虫害対策】除草、病虫害の発生に適切に対処している。 【誘引】茎を痛めないよう支柱に誘引されている。 【摘芽】一本仕立てで栽培されている。 【摘しん】支柱の高さを超えたら摘しんされている。 ※栽培条件から基準体と比較し、時期に応じた栽培技術の評価を「観察」により行う。</p>			<p>・摘芽が実施されている</p>  <p>○おおむね満足できる状況</p>	<p>・摘芽が実施されていない</p>  <p>△努力を要する状況</p>

5 実践の成果

- ・生徒の変容は、作物の生育と共にある。
生徒はテーマに基づいて管理作業を実施し技能を身に付けていく。生徒の技能が成長するとともに、作物の成長も整ってくる。それに従い、作物に対して愛着をもつ記述が見られるようになった。
- ・体験的に学んだ成果は、実践に結びつきやすい。
生徒は学んだことを次時の学習に生かすだけでなく、他教科の学習や家庭での栽培で試してみたいという実践的な態度が育ってきた。

(生徒の記述より)

- ◇育つ様子を見て植物の生育に興味をもった。自分が一生懸命育てたものが大きくなるのは、大変うれしい。
- ◇途中で思い通りに管理できないこともあったが、先生にアドバイスをもらったり図書室で関係する本で調べたりして勉強になった。
- ◇今までトマトを食物としてしか考えていなかった。トマトの成長を管理するという今回の学習を終えて、トマトに対する愛惜みを感じた。
- ◇理科で学習した植物の世界を栽培で体験できて楽しかった。

事例4 フローチャートを用いて情報処理の手順を工夫する事例 技術分野「D 情報に関する技術」(3)ア、イ

実践のねらいと手立て

題材名	教育課程編成要領	教育課程指導資料	教育課程評価資料
計測して制御するプログラムをつくらう	P109	P134・135	—
<p>ここでは、コンピュータを利用した計測・制御の基本的な仕組みを知り、計測・制御のためのプログラムの作成ができることをねらいとする。計測・制御のためのプログラムの学習では、目的や条件に応じて、情報処理の手順を工夫する能力を育成するために、プログラムの命令語の意味を覚えさせるよりも、課題解決のために処理の手順を考えさせることに重点をおく。また、情報処理の手順を考える際には、自分の考えを整理するとともに、より良いアイデアが生み出せるよう、フローチャートを用いて指導していく。</p>			

1 題材の目標

計測・制御のためのプログラムの作成を通してコンピュータを用いた計測・制御の基本的な仕組みを知り、目的や条件に合ったプログラムを作成することができる。

2 題材の評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
情報に関する技術にかかわる倫理観を身に付け、知的財産を創造・活用しようとしている。	目的や条件に応じて情報処理の手順を工夫している。	簡単なプログラムを作成できる。	コンピュータを用いた計測・制御の基本的な仕組みについての知識を身に付けている。

3 指導と評価の計画（8時間）

	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法			
		生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
3	○プログラムで模型を走らせよう。 ・命令の種類やプログラムの作成方法を理解する。 ・プログラムの転送手順を理解する。	・計測や制御のためのプログラムの作成について、意欲的に取り組んでいる。〈観察〉			・情報処理の手順についての知識を身に付けている。〈ワークシート〉
4	○障害物の周りを1周走らせよう。(順次・反復のプログラム) ・情報処理の手順を理解する。 ・手順をもとにプログラムを作成する。		・情報処理の手順を工夫し、複数の手順を考えることができる。〈ワークシート〉		
5	○模型をS字に走らせよう。 ・目的や条件に応じて情報処理の手順を工夫する。 ・目的に応じたプログラムを作成する。		・目的や条件に応じて、情報処理の手順を工夫している。〈ワークシート〉	・目的に応じたプログラムを作成することができる。〈模型の動き〉	
6	○計測しながら、模型を走らせよう。(分岐のプログラム) ・センサの働きとその仕組みを理解する。 ・順次と分岐のプログラムの違いを理解する。	・センサの機能を取り入れたプログラムを作成しようとして、意欲的に取り組んでいる。〈観察・模型の動き〉			・センサの働きを生かした、情報処理の手順についての知識を身に付けている。〈ワークシート〉
7 8	○模型が自律走行できるように、プログラムを工夫しよう。(1)(2) ・目的や条件に応じて情報処理の手順を工夫する。 ・目的や条件に応じたプログラムを作成する。		・目的や条件に応じて、情報処理の手順を工夫している。〈ワークシート〉	・目的や条件に応じたプログラムを作成することができる。〈模型の動き〉	

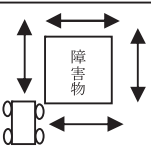


4 本時の学習指導



(1) 目標

- ・繰り返しの命令を使うなどして情報処理の手順を工夫し、複数の手順を考えることができる。

(2) 展開

(4 / 8時間)

学習過程	生徒の活動	時間	教師の働きかけ	評価と指導の工夫 〈評価の観点〉(評価方法)	資料
学習課題への意欲付け	<p>・本時の学習目標を知る。</p> <p>学習課題：障害物の周りを1周する処理手順をたくさん考えよう！</p> 	5			模型 障害物
	<p>・前進と回転をどのように組み合わせればよいかを考え、処理手順をフローチャートで考える。</p>	40	<p>・考えた手順を、フローチャートを使ってワークシートに記入させる。</p>		ワークシート

課題発見と解決	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの命令について知り、繰り返しを使って、処理手順をフローチャートで考える。 ・プログラムを作成し、模型にプログラムを送信して、走らせてみる。 ・処理手順を工夫し、少ない処理手順を考えたり、まったく違う処理手順でもゴールにたどりつける方法を考え、フローチャートを作成する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの命令について知らせ、繰り返しの命令を使って、処理手順を考えさせる。  <ul style="list-style-type: none"> ・四角形の周り方を反対にしたり、三角形の形やひし形の形に動かしたり、丸く走らせる方法などを気付くように、言葉かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆処理手順を工夫し、複数の処理手順を考えることができる。〈工夫・創造〉(ワークシート) ◎他の方法で1周する処理手順を考えることができ、四角形とそれ以外の方法の良さを考えることができる。 ○繰り返しの命令を使った処理手順や、他の方法で1周する処理手順を考えることができる。 △四角形以外に、1周する方法を気付かせる。 △前進と回転(右・左)をどの順番で入れたらいいかを、手で模型を動かして確認させる。 △同じ動作を繰り返しているところをワークシートに記入させる。 	模型 ワークシート ワークシート
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業を振り返り、四角形に動かした時と、それ以外に動かした時のそれぞれの良さについて考える。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業を振り返らせ、学習したことをまとめさせる。 		ワークシート

【ワークシートの例】

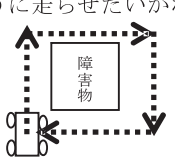
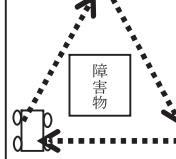
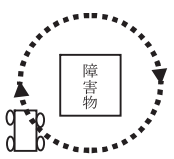
障害物の周りを1周させよう

○年 ○組 ○○番
氏名 _____

今日の授業で頑張りたいことは？

- ・障害物を、キレイによけて走らせたい。
- ・できるだけたくさんの方を考え、模型を走らせたい。

どのように走らせたいかな？

はじめ

前進

右に回転

前進

右に回転

前進

右に回転

前進

おわり

はじめ

繰り返し 3回

前進

右に回転

繰り返し もどる

前進

おわり

はじめ

前進

右に60°回転

前進

右に60°回転

前進

おわり

はじめ

繰り返し 無限

少し前進

右に少し回転

繰り返し もどる

おわり

四角形の処理手順と、それ以外の方法による処理手順とを比べ、それぞれの良いところを記入しよう。

- ・四角形は繰り返しの命令を使うと簡単にできるし、1周でも2周でも、何周でも走らせることができる。
- ・三角形は、四角形よりも少ない手順でできるので、1周するスピードが速い。
- ・丸く動かすと時間は遅くなるけれど、一番少ない手順でできる。

【トラブルの対処法】

模型のトラブル Q&A

- Q プログラムがうまく模型に転送できない
- A パソコンや模型に、コードがきちんと接続されているか、もう一度確認してみましょう。
- A 模型の裏と表が逆になっていないかを、確認してみましょう。
- Q まっすぐに模型が走らない
- A 左右のモータには若干差があります。左右のモータのバランスを調整することができるので、設定画面を使って調整をしてみましょう。
- Q 前回と同じ秒数なのに、進む距離や回転の角度が違う
- A 電池の消耗の具合によって、スピードが変わります。また、タイヤと床(机、紙、絨毯など)の摩擦によってもスピードが変わることがあります。その都度、秒数の調整を行うようにしましょう。

5 実践の成果

- ・フローチャートを使って考えることにより、自分の考えが整理でき、処理手順やプログラムを分かりやすく作ることができるようになった。
- ・プログラムの命令語の意味などまでは踏み込まずに授業を行ったので、プログラムに対する抵抗感がなく、処理手順をもとにプログラムを作成することができるようになった。
- ・プログラムを作ることを目標にしてしまうと二つぐらいの方法しか考えられなかったが、処理手順を考えることを目標にすることによって、三〜四つの方法を考えることができた。
- ・繰り返しの命令を使うことにより、接地面の摩擦や電池の消耗などの条件によって、模型が同じように動かないことを体験から実感していた。

事例5 指導方法を工夫し、幼児とお触れ合い体験を通して、幼児への関心を高める事例 家庭分野「A 家族・家庭生活」(3)ウ

実践のねらいと手立て

題材名	教育課程編成要領	教育課程指導資料	教育課程評価資料
幼児との関わり方を工夫しよう	P104・111	P137	P154・155

幼児との触れ合い体験は、幼児への関心が高まり理解が深まる効果的な学習である。ここではゲストティーチャーを招いて専門的な話を聞き、視聴覚教材を活用するなどの学習方法で、幼児への関心を高めさせ、関わり方の工夫を考える授業の展開例をあげた。本時を次の学習内容である遊び道具の製作、幼児との触れ合い体験につなげていく流れである。

1 題材の目標

幼児の遊び道具の製作や幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児に関心を持ち、幼児の心身の発達や遊びの意義について理解し、幼児との関わり方を工夫できるようにする。

2 題材の評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
幼児の生活について関心をもって学習活動に取り組み、幼児の生活をよりよくするために実践しようとしている。	幼児の生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	幼児の生活に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	幼児の生活に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

3 指導と評価の計画 (14時間)

- 小題材1 「幼児を知ろう」～幼児の発達と生活の特徴、家族の役割、幼児の心身の発達 (6時間)
ねらい 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解する。
- 小題材2 「幼児との関わり方を工夫しよう」～幼児との関わり方の工夫、遊びの意義と遊び道具の製作 (5時間)

時間	○ねらい・学習活動	評価規準・評価方法			
		生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
7 ・ 8 (本時)	○幼児にとっての遊びの意義を理解し、幼児の心身の発達に応じた関わり方の工夫を考え、さらに幼児への関心を高める。 ・ゲストティーチャーを招いて、幼児との関わり方の工夫を生活の中で考える。	・幼児に関心を持ち幼児と適切に関わろうとしている。 (観察 ワークシート)	・幼児の心身の発達に応じた関わり方の工夫を考えている。 (ワークシート)		・幼児にとっての遊びの意義について理解している。 (ペーパーテスト)
9 ・ 10 ・ 11	○遊び道具の製作を通して、幼児との関わり方の工夫を考え、生活の中で生かせるようにする。 ・幼児の遊びの意義を知り、ゲストティーチャーと関わりのある幼児を対象に遊び道具の製作を行う。		・幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具、遊び方について考え、工夫している。(作品 ・ワークシート)		




- 小題材3 「幼児と触れ合おう」～幼児との触れ合い、まとめ (3時間)
ねらい 実際に製作した遊び道具を使って、接し方や遊び方を工夫して幼児と触れ合うことで幼児への関心を深め、さらに生活の中で主体的な関わり方ができるようにする。

4 本時の学習指導

(1) 本時の目標 幼児にとっての遊びの意義を理解し、幼児の心身の発達に応じたかかわり方の工夫を考える。

(2) 展開

【A(3)ウ】(7・8/14時間)

学習過程	生徒の活動	時間	教師の働きかけ	評価と指導の工夫 (評価の観点) (評価方法) ◆評価規準 ※指導上の留意点 ◎十分満足できる状況 ○おおむね満足できる状況 △努力を要する状況の生徒への指導の手立て	資料等		
学習課題への意欲付け	<ul style="list-style-type: none"> 幼児との触れ合い体験での幼児との関わり方を考える。 学習課題を知る。 	5'	<ul style="list-style-type: none"> 幼児との関わり方で、分からないところは、幼稚園の先生に聞いてみようとして投げかける。 	※事前に生徒に質問を聞いておき、ゲストティーチャーとは入念な打ち合わせをしておく。 《写真やVTRの内容》 <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の一日や遊びの様子 幼児の気持ちが出ている表情や態度、会話 生活習慣を身に付けさせる工夫 	ワークシート		
課題発見と解決	学習課題 : 幼児とのかかわり方を工夫しよう 幼稚園や保育所の紹介(施設・行事など) 幼稚園や保育所の一日の生活や遊びについて	20'	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の生活について、インタビューする形で授業を進めていく。 写真やVTRなどを提示しながら幼児にとっての遊びの意義を具体的に説明する。 			写真、VTRなど	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーによる絵本の読み聞かせを観察する。 	5'	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせの中で、幼児との関わり方の工夫に気付かせる。(手遊びや読み方など) 			◆幼児の心身の発達に応じた関わり方についての工夫を考えている。 <工夫・創造> (ワークシート) ◎幼児の心身の発達の学習と本時の学習を生かし、具体的な言葉かけや接し方の工夫が記述され、そのための遊び道具を考えている。 ○幼児の心身の発達に応じた関わり方についての工夫が記述されている。 △幼児の発達と本時の学習を整理させる。	前時の学習で記入した幼児の発達表ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーに幼児の関わり方の工夫について質問する。 	10'					
	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の心身の発達に応じた関わり方の工夫についてワークシートにまとめる。 	25'	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習で記入した幼児の発達をまとめたものに関わり方の工夫を書き加える。 				
	<ul style="list-style-type: none"> グループで発表し合い、関わり方の工夫や必要な遊び道具について話し合う。 	20'	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の先生や教師から各グループに適宜アドバイスする。 				
	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習から学んだことを発表する。 次時の学習内容を知る。 	10' 5'	<ul style="list-style-type: none"> キーワードを黒板に整理する。 				

※本時は、幼稚園の先生をゲストティーチャーとして招き、幼児との関わり方についてアドバイスしてもらった。その他としては、地元の幼児サークルの母親と幼児や「親の学習」の指導者である「埼玉県家庭教育アドバイザー」を招くことも考えられる。

《幼児サークルの母親と幼児を招いて》

◇市の保健センターに紹介してもらい、幼児サークルに向き、学習のねらいや触れ合う方法について説明し依頼する。グループで一組の親子と触れ合う。

《埼玉県家庭教育アドバイザーを招いて》

◇最寄りの教育事務所に、実施一ヶ月前までに実施計画を提出し、依頼する。幼児は発達や関わり方の話を聞いたリ、質問したりする。

5 実践の成果

- ゲストティーチャーの優しい語り口や幼稚園の写真等から幼児のイメージがしやすくなり、幼児の心身の発達に応じた幼児との関わり方を考えて、遊び道具を作ろうと生徒が積極的に授業に取り組む姿が見られた。
- 幼児との触れ合い体験の前に、具体的な関わり方の工夫を考えたことで、実際に幼児と触れ合う場面において生徒が自信をもって幼児と関わることに繋がった。

◇幼児はわがままで自分勝手なイメージでしたが、素直でちゃんと言え聞いてくれるんだと思いました。幼児と接するときは、一緒に考えてあげると成長するというのもわかりました。幼児の心身の発達に応じて、遊びを通して関わることの大切さもわかりました。幼児と接するのは大変そうだけれど、私たちも元気をもらえるんだと思います。

◇幼児とかわる時は、安心感を与えることが大事で、隣に座ってニコッとするだけでも幼児は安心するとわかってよかったです。自分の親や周りの人にしてもらったことが、よくわかりました。

実践のねらいと手立て

小 題 材 名	教育課程編成要領	教育課程指導資料	教育課程評価資料
浴衣の着装体験を通して日本文化を知ろう	P105、106	P140	—

ここでは、衣服と社会生活との関わりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できるようにすることをねらいとしている。また、和服の基本的な着装を扱い、伝統や文化に関する教育の充実を図るようにする。具体的には、浴衣など和服について調べたり着用したりするなどして、和服と洋服の構成や着方の違いに気付かせたり、衣文化に関心をもたせたりすることなどが挙げられる。

1 題材の目標

衣服の着用、選択、手入れや布を用いた物の製作について基礎的・基本的な知識や技術を身に付け、衣生活における課題をもち、自分なりに工夫できる。

2 題材の評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
衣服の着用、選択、手入れや布を用いた物の製作について関心をもって学習活動に取り組み、衣生活をよりよくしようとしている。	衣服の着用、選択、手入れや布を用いた物の製作について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	衣服の着用、選択、手入れや布を用いた物の製作について基礎的・基本的な技能を身に付けている。	衣服の着用、選択、手入れや布を用いた物の製作について基礎的・基本的な知識を身に付けている。

3 指導と評価の計画 (20時間)

●小題材1 「目的に応じた衣服の着方や計画的な着用と適切な選択」(3時間)

ねらい 衣服と社会生活との関わりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できる。衣服の計画的な活用の必要性を理解し、適切な選択ができる。

●小題材2 「浴衣の着装体験を通して日本文化を知ろう」の指導と評価の計画 (2時間※本時)

小題材	時間	○ねらい・学習内容	評価規準・評価方法			
			生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
浴衣の着装体験を通して日本文化を知ろう	2 (本時)	○和服の基本的な構成を知り、洋服との違いを理解する。 ○浴衣の着装を通し衣文化への関心を高め、今後の衣生活と関連させて考える。 ・浴衣の構成や着方を調べる。 ・浴衣の着装について理解する。 ・衣文化について考える。	・日本の衣文化の一つである浴衣に関心をもって学習活動に取り組み、衣文化を大切にしようとしている。 (観察・ワークシート)			・和服と洋服の違いを知り、浴衣の着装について理解している。 (ペーパーテスト)

●小題材3 「日常着の手入れ」(2時間)

ねらい 衣服の材料や状態に応じた適切な手入れができる。

●小題材4 「簡単な衣服の製作」(13時間)

ねらい 布を用いた物の製作を通して、生活を豊かにするための工夫ができる。


4 本時の学習指導



(1) 本時の目標

・日本の衣文化の一つである浴衣に関心をもって学習活動に取り組み、和服の構成や着方を理解している。

(2) 展開 (2時間扱い)

【C(1)ア】 (4・5 / 20時間)

学習過程	生徒の活動	時間	教師の働きかけ	評価と指導の工夫 <評価の観点> (評価の方法)	資料等
学習課題への意欲付け	・和服の歴史や基本的構成について知る。 ・和服と自分たちの衣生活の現状について再確認する。 ・本時の学習課題を知る。	12'	・和服の歴史や基本的構成について、写真を提示し、理解させる。 ・自分の生活の中での和服の着用体験を想起させ現状を再認識させる。 ・本時では、和服の一種である浴衣の着装体験を通し、和服のよさを発見したり、考えたりすることを知らせ、ねらいを明確にさせる。	 <p>◆日本の衣文化の一つである浴衣に関心をもち、浴衣の着装に</p>	プレゼンテーションソフト (写真)
	学習課題 : 浴衣の着装体験を通して日本文化としての和服のよさを知ろう!	8'	・男性、女性の浴衣をそれぞれ提示し、浴衣の着		

課題解決のための体験活動	<p>れとポイントを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演示を見て、着流の流れとその方法を知る。 	15'	<p>装のポイントを資料を使って示すようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料をもとに、ゲストティーチャーに着流の演示をしていただく。 ・ 帯結びの段階では、男性用、女性用の帯の結び方を説明しながら演示を行う。 	資料 浴衣 帯等 ワークシート
	<p>2~3人組での着流体験の例</p> 	40'	<p>帯結びの練習の例。実態によって作り帯を使用してもよい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 段階ごとのポイントを確認しながら演示を行う。 ・ 各班に浴衣、帯等を配布し、班ごとに着流体験をさせる。 ・ 配布資料の他に動画を流し、着流の手順や方法を理解させるようにする。 ・ 必要に応じて、ゲストティーチャーとともに机間指導を行い、助言する。 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男女それぞれの浴衣の着流について、他の班と比較しよりよい着流方はどれかを考える。 ・ 自分たちの浴衣の着流の実践について総合的に評価し、ワークシートに記入する。 ・ 浴衣の着流体験を通して感じたこと、考えたことをワークシートに記入し、発表する。 ・ 使用した浴衣を、手順に沿ってたたみ、片付ける。 ・ 次時の学習内容を知る。 	15'	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループの着流を数名比較させ、どれが最もよいか、またその理由について考えさせ、発表させる。 ・ 他者の着流の状態を見て、浴衣の着流方としてふさわしいのはどれかを選ばせる。 ・ 感じたこと、考えたことだけでなく、着流体験において、自分が関わった内容についてもワークシートに記録させる。 	ワークシート
		10'	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浴衣のたたみ方を資料で確認させ、手順を追って実践させる。 ・ 本時のねらいを再確認し、浴衣のたたみ方から洋服との違いについて理解させる。 ・ 洋服とは異なる日本文化としての和服のよさについて気付かせるようにする。 	

(3) 資料

生徒のワークシートの一部

5 今日の学習でこれからの衣生活について分かったこと、気が付いたことは何ですか。

◇浴衣は、日本に今も生きる伝統文化だと改めて思いました。今は日常では着ないですが、帯やたたみ方、着付けの仕方は現在でも利用できるものです。行事のときなど、和服を着る機会を増やしていきたいです。ふるしきも今見直されているというように、見失った日本の部分を再び見直すべきだと思います。

◇これまでの和服体験を通し、改めて和服のよさを知ることができました。浴衣や着物などは洋服と違って、動きにくかったりするけれど、自分の気持ちを高めてくれると思いました。これからも日本独自の文化を受け継いで、大切にしていきたいです。

◎本時の学習を通し、改めて「和服のよさ」を感じ取り、再発見している記述がある。また、衣文化を大切にしようとする記述もあるため、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

実施に当たっての工夫点等

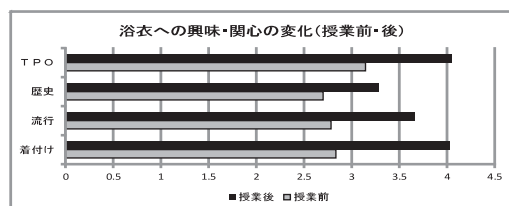
- ・ ゲストティーチャーは、保護者や地域の方を招くのもよい。
 - ・ 帯や浴衣は、保護者や地域の方から借用することも考えられる。
 - ・ 帯結びや着流の動画の活用
- ◎文化ファッション研究機構・服飾拠点共同研究20014
「きもの文化の伝承と発信のための教育プログラム」の動画の活用
(本時では、プログラムの協力を得て浴衣も借用した。)

着付けのポイント (自己評価の際、5段階チェックで使用)

- * 背中心がまっすぐで、たるんでいない
- * すその丈がちょうどよい
- * すそ (足元) が広がっていない
- * おはしよりがすっきり整っている (女性)
- * 衣紋 (首の後ろ) に適度なゆとりがある
- * 胸元 (えり) の合わせがちょうどよい
- * 外出できる出来ばえになっている

5 実践の成果

- ・ 洋服と和服の対比から和服のよさについて知ること、受け継いでいくべき日本の衣文化の重要性や自分のこれからの衣生活について主体的に考える態度を養うことができた。
- ・ これまで和服の着流体験がなかった生徒でも、着流体験をすることによって意欲的に学習活動に取り組み、衣文化への興味・関心も高まった。



事例7 学習形態を工夫し、言語活動の充実を図り、実践力を高める事例 家庭分野「D 身近な消費生活と環境」(1)アイ
「B 食生活と自立」(2)ウ

実践のねらいと手立て

題材名	教育課程編成要領	教育課程指導資料	教育課程評価資料
身近な消費生活について考えよう！	P105～107・P110	P142～P143	—

ここでは、内容「D 身近な消費生活と環境」(1)アイと内容「B 食生活と自立」(2)ウとの関連を図った事例である。本題材では、食品の選択を通して、多様化している販売方法や購入方法などを学習し、実際に商品を選ぶ活動の中で、消費生活への関心や実践力を高められるようにした。本事例では、全員が情報収集をし、話し合い活動や発表方法等を工夫して言語活動を充実させ、課題解決に向けて意欲的に取り組めるようにした。

1 題材の目標

販売方法の特徴を理解し、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができる力を身に付ける。

2 題材の評価規準


生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
家庭生活と消費について関心をもって学習活動に取り組み、消費生活をよりよくしようとしている。	家庭生活と消費について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	家庭生活と消費に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭生活と消費について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。


3 指導と評価の計画（7時間）

時間	○ねらい・学習活動	評価規準・評価方法			
		生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
6・7 (本時)	○販売方法や支払い方法の特徴を理解し、目的に応じた適切な方法の選択を工夫する。 ・店舗販売と無店舗販売の利点と問題点を調査し、話し合う。 ・物資やサービスの購入場面を想定し、適切な支払方法を考える。	・身近な販売方法に関心をもち、その利点と問題点について考えようとしている。 (観察・ワークシート)	・収集・整理した情報を活用して、物資の選択、購入及び活用について考え、工夫している。 (ワークシート)		・中学生に関わりの深い販売方法の特徴について理解している。 (ペーパーテスト)

4 本時の学習指導

- (1) 本時の目標 販売方法や支払い方法の特徴について知り、適切な方法を選択し、活用しようとしている。
(2) 展開（2時間扱い） 【D(1)イ】（6・7 / 7時間）

学習過程	生徒の活動	時間	教師の働きかけ	指導と評価の工夫 <評価の観点> (評価方法)	資料等				
学習課題への意欲付け	・最近購入したものを思い出し、その時の販売方法や支払い方法を発表する。 ・本時の学習課題を知る。	2'	・身近な消費行動について振り返らせる。 ・店舗販売と無店舗販売を知らせ多様な販売方法や支払い方法があることに気付かせる。		写真 広告 パソコン 米 ワークシート				
	学習課題：適切な販売方法と支払い方法を選び、賢い消費者になろう！								
	自分の考え ・身近なお米の販売方法を知り、自分ならどの販売方法を活用するか考え、ワークシートに記入する。 学習グループ ・自分の考えを学習グループで発表し、学習グループ内で自分が調べる販売方法を決定する。	3'	・多様な販売方法から具体的な4つの事例を取り上げさせる。 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td><店舗販売></td> <td>・スーパーマーケット</td> <td>・農産物直売所</td> </tr> <tr> <td><無店舗販売></td> <td>・消費生活協同組合</td> <td>・インターネット</td> </tr> </table>	<店舗販売>		・スーパーマーケット	・農産物直売所	<無店舗販売>	・消費生活協同組合
<店舗販売>	・スーパーマーケット	・農産物直売所							
<無店舗販売>	・消費生活協同組合	・インターネット							
課題解決のための	課題グループ ・それぞれの販売方法の利点と問題点を課題グループに分かれて調べる。 ・課題グループごとに意見交換をしながら、分かったことをワークシートにまとめる。 学習グループ ・学習グループに戻り、調べたことを報告する。	10'	・グループの全員が協力して調べることで、考えが広がることを伝え、意欲をもたせる。 ・調べて分かったことや意見交換をしながら気付いたことなどを自分の言葉でワークシートにまとめるよう、助言する。						
		20'	・メモを取りながら聞くよう、指導する。 ・発表の仕方カードを参考にさせ自信をもって発表させる。	◆身近な販売方法に関心をもち、その利点と問題点について考えようとしている。<関心・意欲・態度> (観察・ワークシート) ◎自分が調べた以外の販売方法について質問をしたり、資料や友だちの意見を参考にしながらまとめた					

グループ学習 自己決定	<ul style="list-style-type: none"> 報告をもとに、販売方法の利点と問題点をまとめる。 利点と問題点を基にそれぞれの考えを話し合う。 	15'	<ul style="list-style-type: none"> 話し合って出た意見を付箋にまとめ、黒板に貼らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> りして、具体的な場面を想定し、話し合いに参加している。 	付箋 ペン テープ	
	<p>自分の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売方法の利点と問題点を基に、友達の意見も参考にしながら、最終的にどの販売方法を選択するか、自分の考えをまとめる。 	10'	<ul style="list-style-type: none"> 選択した販売方法とその理由を自分の言葉でまとめられるよう助言する。 			<ul style="list-style-type: none"> 〇販売方法の利点と問題点をまとめそれをもとに話し合いに参加している。 △利点と問題点が記入しきれていない箇所について具体例で説明を加え、関心が高まるようにする。 ◆収集・整理した情報を活用して、物資の選択・購入について考え、工夫している。〈工夫・創造〉(ワークシート) ◎目的に応じた販売方法を友達の意見や利点や問題点など複数の理由から自分なりに考え、工夫して選択している。 〇収集・整理した情報から販売方法を自分なりに工夫して選択している。 △発表内容を再度振り返らせ販売方法の特徴に気付かせる。
	<p>全体</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをどうまとめたか、ワークシートを基に数名が発表する。 	5'				
課題解決	<ul style="list-style-type: none"> 自分の選択した販売方法で米を購入する際、どんな支払い方法を選択するか考え、その理由をワークシートに記入し、発表する。 多様化する支払方法の問題点について知る。 	10'	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや選択理由をワークシートに記入させる。 友達の意見と自分の考えを比較しながら、さらに自分の考えを深めるよう助言する。 多様化する販売方法の問題点を知らせる。 			
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習で分かったことを自分の言葉でまとめ、発表する。 次時の学習内容を知る。 	5'	<ul style="list-style-type: none"> 本時の授業を今後の生活に役立てられるよう助言する。 			

<生徒Yのワークシート>

適切な販売方法と支払い方法を選び、賢い消費者になろう!

組 番 氏 名

★自分の考えをまとめよう! ~お米を購入するとしたら、どの販売方法を選択しますか?~
自分なら(スーパーマーケット)を選択します。
理由は(店に行けば、すぐに買える)からです。

★販売方法とその特徴を調べよう!

	(店舗)販売	(無店舗)販売
スーパーマーケット	消費生活協同組合	インターネット
利点	<ul style="list-style-type: none"> 商品を手で取り、目で見て確認できる。 その場で商品を手に入れることができる。 特売日があり広告で確認することができる。 値下げをして売っていることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品を手で取り、目で見て確認できる。 その場で商品を手に入れることができる。 商品の専門的な話を聞くことができる。 生産者の情報や捺印を確認して買える。
問題点	<ul style="list-style-type: none"> 自分で店に行かないと買うことができない。 品切れがある。 交通費がかかる。 閉店時間がある。 重い商品を持ち運ぶのは大変。年齢や状況によっては負担になることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品を手で取り、目で見て確認することができない。 前もって申し込まなければならぬ。 申込書を書くのが大変。 商品が届くまで時間がかかる。 受け取る時に家にない可能性がある。

★さまざまな意見を聞いて、自分の考えをまとめよう!
自分だったら(インターネット)を選択します。
理由は(商品を手で確認することはできないが、様々な商品の情報を比較しながら、自分が欲しい商品を選択でき、重たいお米を運ばずに、自宅で購入できる)からです。

自分の意見をまとめるのに参考にしたい意見があったら、記入しよう
参考にしたい意見は、(Bさんの様々な情報を比較できるという)意見です。

★今後、物を買う時に、販売方法や支払い方法など生活に役立てたいことを書こう!

・どの方法で買っても、利点と問題点があると分かった。これから自分が物を買う時は、買うものに応じて利点と問題点をよく考えてから販売方法や支払い方法を選んで買いたい。

・今までは店舗販売ばかりを利用してはいたけれど、インターネット販売を選べたら便利なのことが分かった。友だちの意見を聞いてから消費生活協同組合を利用すると便利なのも分かった。実際見ていないので、トラブルもあるが、無店舗販売もいいなと思った。

<関心・意欲・態度>(観察・ワークシート)

◎生徒Yにおいては、スーパーマーケットの利点と問題点を調べ、他の販売方法についても利点と問題点を整理し、実生活の中で具体的に考え、話し合いに参加していたことから、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

<工夫・創造>(ワークシート)

◎生徒Yにおいては、収集・整理した情報や友達の意見から、利点と問題点など複数の視点から選んだ理由をワークシートに記述していることから、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

5 実践の成果

- 学習形態を工夫し、言語活動を充実させたことで、一人一人が自分の役割を果たすために意欲的に取り組むことができていた。調べたことを学習グループで説明し、どの販売方法を選んだらよいかの話し合い、さらに自分の考えをまとめる中で、一人一人が思考判断する場が設定できた。
- 生徒が販売方法について考える際には、実物の米や店舗の写真、カタログ、パソコンなど、多くの資料から情報を収集できるように学習環境を整えたことにより、生徒から様々な考えが発表されていた。
- 今後、生活に役立てたいことの感想には、実生活と結び付けて具体的に記述してあったものが多くあった。

事例8 小・中学校の学習内容の系統性を踏まえ食生活の課題と実践へつなげる事例 家庭分野「B食生活と自立」B(3)ウ 実践のねらいと手立て

題 材 名	教育課程編成要領	教育課程指導資料	教育課程評価資料
自分や家族のために、食事を作ろう	p 104～p 106 p 110	p 138 ～ p 139	p 157

ここでは、自分や家族の食生活に関心を持ち、食生活を見直し課題を見付け、課題解決のための食事作りを計画し、実践、評価、改善するという一連の学習活動を重視し、問題解決的な学習を進めることをねらいとしている。具体的には、自分や家族の食生活をチェックし、食生活の課題を把握し、これまでに学んだ知識や技術を活用することで、1日分の献立を立て、自分や家族のために休日の夕食作りを行う。その後実践発表会を行い、実践の成果や課題を明確にし、次の実践への意欲付けを図った。

1 題材の目標

自分や家族の食生活に関心を持ち、食生活をよりよくするための工夫を考え、課題をもって日常食の調理計画と実践を自分なりに工夫できる。

2 題材の評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
自分や家族の食生活をよりよくすることに関心を持ち、課題を主体的にとらえ、日常食の調理などの計画と実践に取り組もうとしている。	自分や家族の食生活について課題を見付け、その解決を目指して、日常食の調理計画と実践を自分なりに工夫している。 日常食の調理などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。		

3 指導と評価の計画（4時間）

時間	○ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		小学校での指導内容
		生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	
1	○家族の食生活をよりよくすることに関心を持ち、課題を主体的にとらえようとしている。 ・自分や家族の食生活について調べ、問題点を見付ける。	家族の食生活をよりよくすることに関心を持ち、課題を主体的にとらえようとしている。 (観察・ワークシート)		食事の役割と日常の食事の大切さ B(1)ア
2・3	○家族の食生活についての課題解決を目指して、日常食の調理計画を自分なりに工夫して考えられる。 ・課題から改善目標を設定して、改善のための工夫を考え、1日分の献立を考える。 ・休みの日に、考えた献立の夕食をつくるための計画を立てる。		自分や家族の食生活について課題を見付け、その解決を目指して、日常食の調理計画を自分なりに工夫している。 (ワークシート)	1 食分の献立作成 調理への関心と調理計画 B(2)ウ
家庭での実践	○休日に自分や家族のための夕食づくりの実践を行う。 ・発表のために、材料、作り方、反省感想を記入する。食べてもらった家族からコメントを記入してもらう。			調理の基礎 ゆでる、いためる 米飯及びみそ汁 B(3)ウエ 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い B(3)オ
4	○調理の実践の成果と課題についてまとめ、発表することができる。 ・班ごとに実践発表会を行い、相互評価をする。		日常食の調理などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。(観察・ワークシート)	

※食生活の学習において小学校での学習を基礎に中学校で学習したことを再度確認し、それを活用して工夫し創造できるようにする。家庭実践においては、家庭との連携を図り、生徒を取り巻く環境にも配慮した。



<実践発表会での様子>

4 展開（省略）

自分や家族のために、食事作りをしよう！～

1 自分や家族の食生活について、チェックしてみよう！
(はいの項目に○を付けよう)

1 時間目に記入

2 食生活チェックから問題点を見付けよう！

項目	家族構成	
	自分	父
① 食事は、3食きちんと食べていますか	○	○
② 食事は、家族と食べますか (朝食)	○	○
(夕食)		
③ 食事の時間は、だいたい決まっていますか (朝食)	○	○
(夕食)	○	○
④ 間食をあまり食べないようにしていますか	○	○
⑤ 好き嫌いなく食べるようにしていますか		○
⑥ 野菜や果物を多く食べるようにしていますか	○	
⑦ 塩分や糖分、油をとりすぎないようにしていますか		○

《問題点》
・家族全員で夕食を食べることが少ない。
・食事のバランスがよくない。
・父があまり野菜をとっていない。

2・3時間目に記入

3 改善のための課題を設定しよう！

課題

野菜を多くとり、必要な栄養素をバランスよくとれるよう一日分の献立を立て、家族の喜ぶ夕食を作ろう。

改善のための工夫

夕食では、ほうれん草をゆで、3群の野菜をたくさん取れるようにする。また、食品数を多くし、バランスのとれた食事にする。ほうれん草、大根などの地元の旬の食材も使う。

4 自分や家族のための一日分の献立を考えよう！ 食品名と概量を書き入れよう (g)

		調理名	食品名	1群						点検後の変更
				1群	2群	3群	4群	5群	6群	
夕 食	主 食	ごはん	米					120		・3群がまだ少なかったの ので、にんじんと ミニトマトを加 えた。 ・2群も少な かったので、大 根おろしにし らすを加えた。 ・父と母の 分は、油を使 わずに焼く。
		鶏肉のソテー	鶏肉	80						
	主 菜	つけあわせ	油						3	
		みそ汁	にんじん			20				
			きゅうり				20			
副 菜	ほうれん草のごま和え	ほうれん草			50					
	大根おろし	ごま					30			
		砂糖						10		
	みそ汁	大根				30				
		しらす		10						
		みそ	15							
		とうふ	40							
		乾燥わかめ		1						
献立の点検 (1日分の合計記入)										
過不足										
改善後の点検 (変えたものは太字で)										

5 家庭での実践

作った料理の写真



感想

みそ汁は、少しいつもよりうすかったです。鶏肉のソテーにサラダを付け、ほうれん草のごま和えも加えたので、旬の地元野菜を食卓に取り入れられました。全体的においしくできたと、お父さんにも野菜をたくさん食べてもらえ、家族に喜んでもらったのでよかったです。

家族からのコメント

栄養のバランスがとれていて、とてもおいしかったです。娘が、私の健康を気遣い、野菜をたくさんとるような食事を作ってくれました。その気持ちがうれしかったです。健康に気を付けた食事をとれるようにしたいです。(父より)

5 実践の成果

- ・食生活チェックを行ったことにより、自分や家族の食生活についての具体的な課題を見つけることができ、自分の考えを生かした自分なりの工夫が明確になったため、課題解決に向け意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・本題材は、今まで学んだ知識と技術を活用して、それらを基に自分なりの新しい方法を創造するなど、実際の生活の中で生かすことができる実践的な態度につながった。


第2・3時の評価規準

- ◆自分や家族の食生活について課題を見付け、その解決を目指して、日常食の調理計画を自分なりに工夫している。
- ◎食生活のチェック表から、具体的な課題を設定し、課題を解決するための工夫を複数の視点から記述している。
- 食生活のチェック表から、課題を設定し、課題を解決するための工夫を記述している。

生徒Tのワークシートには、野菜を多くとるという具体的な課題とその工夫、食品の数を多くするの工夫の記述があり、「十分満足できる」状況 (A) と判断した。

事例8の食生活の課題と実践においても、今まで習得した知識や技術を活用して、問題解決的な学習に取り組んだが、特に技能においては、小・中学校の連携を図り繰り返し学習する中で習得させる必要がある。一人一人にしっかりと技能を習得させるために、下のような系統表を教師、生徒が持ち、□にチェックしていく。(重点的に学習すべきこと(回))

調理に関する学習での基礎的な技能等の確認表 安全指導については、「安全指導の手引」(平成14年3月)、県HP参照

技能等 学年・題材	小学校 B 日常の食事と調理の基礎	中学校 B 食生活と自立
切り方	<p>切る -----></p> <p><input checked="" type="checkbox"/>包丁を使って切る。 ・目的に合った切り方 ・包丁の使い方</p> <p><input type="checkbox"/>包丁を使って皮をむくことができる。</p>	<p>-----></p> <p><input type="checkbox"/>食べられない部分を排除することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>食べやすさ、加熱しやすさ、調味料のしみ込みやすさ、見た目の美しさなどを考えて適切に切ることができる。</p>
味の付け方	<p>味付け -----></p> <p><input checked="" type="checkbox"/>食塩、しょうゆなどの塩味による味付けができる。</p> <p><input type="checkbox"/>みそによる汁物の味付けができる。</p>	<p>-----></p> <p><input checked="" type="checkbox"/>食塩、みそ、しょうゆ、砂糖、食酢、油脂などを用いて、調理の目的に合った調味ができる。</p>
盛り付け配膳	<p>盛り付け・配膳 -----></p> <p><input type="checkbox"/>料理の分量や色どり、食べやすさを考えて、盛り付けができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>我が国の伝統的な配膳の仕方が分かり、配膳できる。</p>	<p>-----></p> <p><input type="checkbox"/>料理の外観がおいしさに与える影響は大きいことがわかり、盛り付けや配膳ができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>料理の様式に応じた方法で盛り付けや配膳ができる。</p>
加熱調理	<p>加熱調理 -----></p> <p><input type="checkbox"/>ゆでたり、いためたりする調理ができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>材料や調理の目的に応じた適切な加熱操作ができる。</p> <p>ゆでる -----></p> <p><input type="checkbox"/>固い食品を柔らかくするなど、食べやすくおいしくするために目的に応じたゆで方ができる。</p> <p>いためる -----></p> <p><input type="checkbox"/>フライパンなどで油を使い、かき混ぜながら加熱し、目的に応じたいため方ができる。</p> 	<p>-----></p> <p><input type="checkbox"/>火加減の調節をすることができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>加熱器具を適切に操作して調理できる。</p> <p>煮る</p> <p><input type="checkbox"/>材料の種類や切り方によって煮方が異なること、調味の仕方が汁の量によって異なることなどが分かり、煮ることができる。</p> <p>炒める</p> <p><input type="checkbox"/>短時間でおいしく炒めるために、材料の切り方、炒める順序、分量などに留意して炒めることができる。</p> <p>焼く</p> <p><input type="checkbox"/>直火焼き、フライパンやオーブンなどに用いた間接焼きの特徴が分かり、調理に適した焼き方で焼くことができる。</p>
小学校における米飯・みそ汁の調理について	<p>米飯の調理</p> <p><input type="checkbox"/>米の洗いや、水加減、浸水時間、加熱の仕方、蒸らしなど、固い米が柔らかい米飯になるまでの一連の操作や変化を実感的にとらえ、炊飯することができる。</p> <p>みそ汁の調理</p> <p><input type="checkbox"/>だしのとり方、中に入れる実の切り方や入れ方、みその香りを損なわない扱いなどが分かり、みそ汁を調理することができる。</p>	
魚や肉の扱い	<p>※生の魚や肉については、用いない。</p> <p><input type="checkbox"/>卵を用いる場合には、新鮮であることを確認し、調理することができる。</p>	<p><input type="checkbox"/>魚や肉については、煮る、焼く、炒めるなどの加熱調理ができる。</p> <p><input type="checkbox"/>主な成分であるたんぱく質が加熱によって変性・凝固し、固さ、色、味、においが変化することが分かり、調理の目的に合った加熱方法で調理できる。</p> <p><input type="checkbox"/>魚や肉の衛生的で安全な取扱いができる。</p>
調理例	<p>小学校で調理したものに印を付けましょう。</p> <p><input type="checkbox"/>ゆで卵 <input type="checkbox"/>ゆで野菜のサラダ</p> <p><input type="checkbox"/>米飯 <input type="checkbox"/>みそ汁</p> <p><input type="checkbox"/>三色野菜の油いため <input type="checkbox"/>スクランブルエッグ</p> <p><input type="checkbox"/>粉ふきいも <input type="checkbox"/>ジャーマンポテト</p> <p><input type="checkbox"/>野菜のベーコン巻き焼き <input type="checkbox"/>ツナポテトサラダ</p>	<p>中学校で作ったものに印を付けましょう。</p> <p><input type="checkbox"/>しょうが焼き <input type="checkbox"/>ハンバーグ <input type="checkbox"/>シチュー</p> <p><input type="checkbox"/>ぎょうざ <input type="checkbox"/>魚の煮付け <input type="checkbox"/>ムニエル</p> <p><input type="checkbox"/>焼き魚 <input type="checkbox"/>つみれ汁 <input type="checkbox"/>かば焼き</p> <p><input type="checkbox"/>青菜の卵とじ <input type="checkbox"/>けんちん汁 <input type="checkbox"/>とん汁</p> <p><input type="checkbox"/>肉じゃが <input type="checkbox"/>筑前煮 <input type="checkbox"/>いりどり</p> <p><input type="checkbox"/>ミネストローネ <input type="checkbox"/>ドライカレー <input type="checkbox"/>ちらしずし</p> <p><input type="checkbox"/>卵どんぶり <input type="checkbox"/>スパゲッティニミニトソース</p>
その他	<p>上記以外で、小学校で調理したものを記入しましょう。</p> <p>① () ④ ()</p> <p>② () ⑤ ()</p> <p>③ () ⑥ ()</p>	<p>上記以外で、中学校で調理したものを記入しましょう。</p> <p>① () ④ ()</p> <p>② () ⑤ ()</p> <p>③ () ⑥ ()</p>